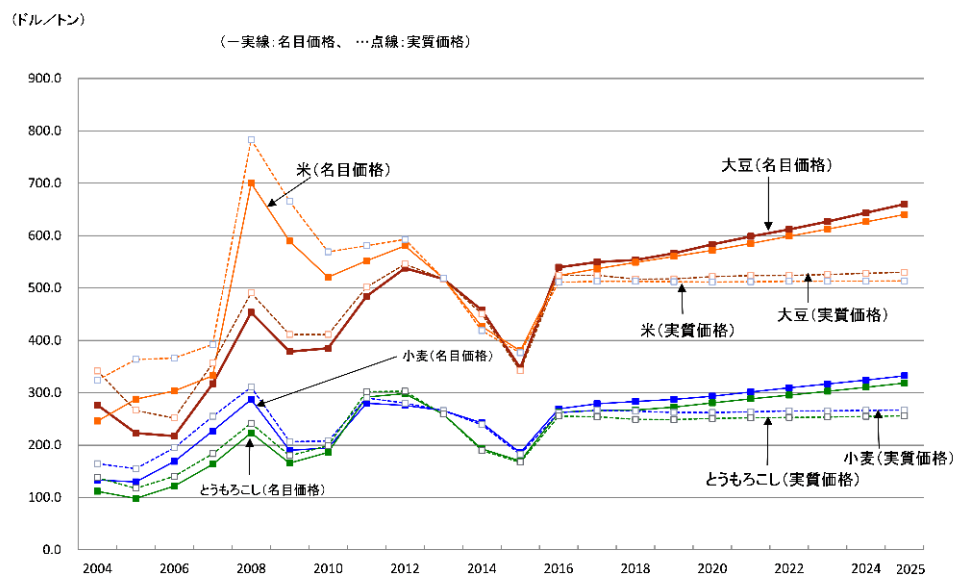


国際穀物等の価格は今後もほぼ横ばいに近く 緩やかな伸びで推移する見通し

食料輸入国である日本の食料の安定供給は、世界の食料需給に大きく依存しており、世界の食料需給について、自らの分析に基づく将来見通しを持つことは、我が国の食料安全保障政策の重要な基礎となります。このため、農林水産政策研究所においては、自ら開発した「世界食料需給モデル」を用いて、2008 年度から毎年、10 年後の世界の食料需給見通しを策定・公表しています。今回は、2013 年度を基準年として 2025 年における世界の食料需給見通しを行いました。

世界の経済成長は中期的にも今後とも緩やかに成長し、総人口が継続的に増加する等の前提条件を設定した結果、基準年から 2025 年にかけて穀物等の需要が供給を若干上回る状態が継続すると見込まれ、穀物等の価格は、低かった 2006 年以前の水準にはもどらないものの、実質で横ばいに近く、緩やかな伸びで推移する予測結果となりました。

主要穀物及び大豆の国際価格



(注) 2015 年までが実績値で、2016 年から 2025 年までには予測値。小麦、とうもろこし、大豆の将来の名目価格は、米国の消費者物価指数 (CPI) を用いて算定し、米はタイの CPI を基に算定。

この成果の詳細については、農林水産政策研究所 Web サイトをご覧ください (以下参照)。

●食料需給見通し

<https://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>